

2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010201

1. 計画名称

茅野市社会教育推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	各施策目標について、おおむね順調に進んでいる。共通の目標として「茅野市生涯学習推進指針」の方針に基づき、市民一人ひとりの多様なニーズに対応し、「学びのきっかけづくり」と「良好な学びの場」を提供・維持していく。
今後の重点化施策番号	1	説明	更なる学習機会の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に進めるとともに、地域・学校・行政の連携による事業展開を進める。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	公民館の充実	おおむね順調	中央公民館名称変更年として例年事業に加えての事業を実施した。講座においては高い満足を得られている。また、施設の工事・修繕等も予算内で出来る限りの対応をした。年間利用者数も増加した。地区公民館、分館支援により地域づくりに寄与。	建物及び設備の老朽化。利用団体の高齢化により解散団体が増えている。芸術祭関係事業への参加団体の固定化。講座受講者において、男性及び40歳以下の参加者が少ない。	施設関係は、予防修繕を基本として長寿命化を図る。要望の多い冷房設置検討。講座関係は、アンケート等を活用してより内容を充実させていく。若者関係は講座メニューの検討とともに短期講座に変更しより参加しやすくする。芸術祭は、芸文協との協力のもと芸術祭催し等の見直しを図る。
2	図書館の充実	やや遅れている	計画当初より図書費が150万円増となったことにより、施策1、施策3については成果が見られた。施策2についてはおはなしボランティア養成講座を行ったが、成果には繋がらなかった。	H30年から開館時間を1時間延長したが、H29年と比較すると入館者は減となった。入館者は予算と連動する部分も大きい。現在の施設・立地条件で来館を促す方法を検討していきたい。	入館者増を図るため、利用者及び市民にアンケートを取り参考としたい。施策2については今後とも読書活動応援センターとも連携し、増を目指したい。
3	八ヶ岳総合博物館の充実	おおむね順調	・開館30周年記念事業を実施し、多くの入館者があった。新しいメニュー（地域観察会、毎月お楽しみ会、プラネタリウム特別投影、アンコールイベント、自然観察路）を生み出し、博物館利用の選択肢を増やすことができた。・モバイルプラネタリウムの視聴者は、着実に増加している。多くの市民の科学への関心が高まっている。・市民研究員養成講座（第2期）に実費79人の参加があり、30人が認定された。認定者には、より博物館活動に関わってもらおう。・市民研究員の活動により、自然や文化に関する資料が多数収集、蓄積されている。	・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。・収集資料を通路に収納棚を設け、当面の対応をしている。くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要である。	・記念事業で新たに実施した講座・イベントは、今後も視点を変えて継続していく。・調査研究や資料収集を市民研究員とともに進めていく。・モバイルプラネタリウムの公民館分館への出前投影に応じるよう、公民館用出前カレンダーをつくり公表する。
4	尖石縄文考古館の充実	おおむね順調	夏休み期間や大型連休中の臨時開館を含み年間310日開館、無料開館8日、企画展2回、来館者が参加できるイベント＝縄文教室10回、縄文ゼミナール7回、「識る」部会事業関連イベント2回を開催した。国宝「土偶」や長野県宝の観覧とボランティアの解説や各種イベントは好評を博した。	各種イベントや企画展・特別展は好評ではあるが、年間の入館者数に直接的かつ劇的に効果が出ているわけではない。また、市民向けのイベントとオープン参加イベントに参加者数の差があり、参加要件の設定に課題がある。	入館者数のさらなる増加のため、①展示資料及び展示パネルの内容の再検討とそれに基づく変更、②企画展と連動したゼミナールや「識る」部会事業の実施、③縄文文化に関心のある層への広告戦略（「縄文ZINE」への広告掲載等）、等を進める。
5	神長官守矢史料館の充実	おおむね順調	・企画展を年間3回開催した。企画展時にギャラリートークを開催し、企画展の内容をわかりやすく説明し、参加者が増加している。・日常的に館の職員が常設展の展示解説を行っており、来館者の展示に対する理解を深めている。そして、リピーターが増えている。	・企画を行う職員が1人であり、八ヶ岳総合博物館の担当でもあるため、企画展以外のイベントが行いづらい。	・企画展については、従来通り行い、内容や、時節に応じたものを開催していく。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	社会教育委員の会議	利用団体の高齢化、発表団体の固定化とのことだが、発表の場の提供等により、やりがいを持てるようにして欲しい。 利用者数としては示されていないが、地区CCも地区公民館としての利用ニーズがあると思う。	魅力ある講座開催や芸術祭等により、より多くの方に興味関心を持ってもらえるように努めていく。本年度は芸文協との協働により芸術祭の催し等の充実を図っている。
開催回数	1		
参加延べ人数	22		
関連市民団体等名称		図書館の運営について、ボランティア養成講座の参加者が、図書館の活動や新規のボランティア活動に繋がらないとあるが講座に出られた方の感想等はあるか。	講座参加者の大半がボランティア活動をしている方達だった。その方達の勉強とスキルアップのために開催したが、各活動に生かされている。今後もスキルアップを目指して、充実した講座となるよう検討する。
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称		博物館の運営について、収集資料の量が多くて溢れていて廊下に収納していると言う話を聞いているが、避難経路等安全面を考えると専用の部分に収納されるべきものである。	廊下への収納について、二人が行き交う幅は十分なスペースはある。しかし、温湿度管理や安全面を考えると現在の燻蒸室を改造して収納庫とすることを検討している。
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料 別紙「施策評価シート」

3. 各施策等における評価内容と改革改善(5つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	地域づくり・ひとづくりの推進	おおむね順調	生涯学習講座関連費の講座について、外部講師の知識や経験が学校教育への有効な効果をもたらしている。また、小泉山体験の森の看板リニューアル整備は、薄れがちであった地域の親子の関わりを復活する効果がある。	生涯学習関連費の講座について、魅力ある講座内容を取り込む必要がある。公民協働の事業について、地区の役員と兼務である負担感や役員の高齢化が課題となる。	生涯学習講座関連費のうちコミュニティスクールや教職員の負担軽減から、学校開放講座を縮小し、開かれた学校づくりを充実する。小泉山体験の森の看板リニューアル整備事業において地域の親子参加を促す。
7					
8					
9					
10					